

災害に対する大学の取り組み

—高知県立大学—

～ 学生も参加した、訓練を通じた災害対策の確認と実践力の向上 ～

毎年、隣接する高知医療センターと合同災害訓練を実施しており、今年も12月15日(日)に行いました。大規模災害発生時に、高知医療センターが基幹災害拠点病院としての機能を十分に果たせるように、医療センターに来院された軽症者と外来患者や面会者等の帰宅困難者を高知県立大学の救護所および避難所で収容します。特に救護所では、大学の医療スタッフばかりではなく、医療センターから派遣された医療スタッフも加え、協働して軽症者の対応をします。また、構成する学部の特長も活かし、避難所運営および食料等対応の訓練も行っています。訓練には、地域の町内会の方々も避難者として参加し、大学の教職員ばかりではなく、学生も参加し、協働して救護所および避難所運営をします。

① 高知DMATから傷病者の設定を受ける学生



② 医療センターにて、傷病者を演じる学生



③ 学内に災害対策本部を立ち上げ、学生と教職員の安否確認を開始



高知医療センターのDMAT隊員により、学生は傷病者の仕込みを受けます(①)。一部の学生は、傷病者の立場から訓練に参加し、医療や福祉の対応を学びます(②)。大学では、先ず災害対策本部を立ち上げ、学生と教職員の安否確認および施設の被災状況を調査します(③)。安全が確保されたことを確認し、学内に救護所と避難所を設置するため、担当する学部へ指示をします。

④ 医療センターの医師に加え、本学の教員の看護師と支援を行う看護学部の学生



⑤ 看護学部の学生サークルと地域住民による避難所運営(簡易トイレの組み立て)



⑥ 健康栄養学部による炊き出し



救護所は、看護学部が担当し、医療センターから派遣された医療スタッフと協働し、学内教員の医師や看護師に加え、災害支援のサークルの学生も支援に参加します(④)。避難所は、主に社会福祉学部が担当しますが、看護学部と健康栄養学部の教員や学生も加わり、地域住民の方と協働して運営をします(⑤)。炊き出し等の食料対応は、健康栄養学部の教員と学生が担当します(⑥)。

高知県立大学と
高知医療センターとの
包括的連携活動

高知県立大学
池キャンパス



基幹災害拠点病院
高知医療センター